O2-20

# 遷延性意識障害病棟における「震災時対応マニュアル」の作成と今後の課題

[1]広南病院 東北療護センター 看護部、[2]広南病院 脳神経外科

○三浦 陽子[1]、岩間 かおり[1]、大友 昭子[1]、川熊 のぶい[1]、齋藤 薫[1]、長嶺 義秀[2]、中里 信和[2]、藤原 悟[2]

【目的】遷延性意識障害病棟において、地震発生時の被害を最小限におさえるためには、事前の心構えや認識が重要と考えられる。今回、病棟の看護スタッフが震災時にとるべき行動・役割を理解することを目的としてフローチャート式マニュアルを作成し、スタッフの意識調査からその効果と今後の課題を検討した。

【方法】マニュアル作成前後でスタッフの震災に対する意識調査を行い、χ二乗検定によりマニュアルの効果を検討した。

【結果】震災に対する意識についてマニュアル作成前後の有意差はなかったが「院内で災害が発生した時のことを考えたことがある」と答えたスタッフは78%だった。「震災時の適切な行動を取る自信」についてマニュアル作成前後で有意差があり、「震災時のイメージ化」についてはマニュアル作成前後の有意差はなかった。

【考察】マニュアル作成前の意識調査から、スタッフが災害に対して危機感を感じているものの、マニュアルを読むまでの行動に至っていないのが実状と考えられた。『震災時対応マニュアル』を作成した結果、震災時の取るべき行動・役割を理解できたスタッフは半数以上で、「震災時の適切な行動をとる自信」についてマニュアルの効果が認められた。しかし、「震災場面のイメージ化」についてマニュアルの効果は出なかった。今後は、マニュアルに沿ったシミュレーションや避難訓練を行うことで震災時のイメージ化を図り、繰り返しの訓練により震災時の行動に対する自信をつける必要がある。

【結論】1) 震災時対応マニュアルの作成により半数以上のスタッフが震災時の行動・役割を理解できた
2) 震災を想定したシミュレーションや避難訓練を定期的に行う必要がある。